

愛知県自然環境保全地域

小牧大山



愛知県自然環境保全地域とは

私たちが、健康で文化的な生活を享受していくためには単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみではなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として国においては昭和47年に自然環境保全法が、愛知県においては、昭和48年に自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、将来にわたって保全しようとするものです。



小牧大山の自然

小牧大山自然環境保全地域は、全体で46haが指定され、外周部の普通地区約37haはアカマツ林ですが、山麓の江岸寺、中腹の稚児神社、大山廃寺塔跡を連ねる谷間は照葉樹林（常緑広葉樹林ともいう。）の残る特別地区（約9ha）となっています。

照葉樹林とは日本を含む東アジアで、カシ・シイ類、ツバキ、サカキのような常緑で光沢のある小型の葉を持った樹木から成る森林の総称です。その分布範囲は気温環境で年平均気温13度より暖かいところ、東海地方ならば標高で約600m以下の地域と考えられます。したがって、日本の関東地方以西の平野、丘陵地には昔から照葉樹林が広がっていたのですが、現代では人間の活動による都市化、農地化、人工林化が進み、今、照葉樹林は神社や寺院の森として破片的に残されるのみの状態となっています。小牧大山自然環境保全地域の森林は、愛知県内に残された数少ない照葉樹林の一つなのです。



照葉樹林（ツブラジイ林）



大山廃寺塔跡

小牧大山の植生

小牧大山の照葉樹林は、東海地方の標高300m以下の地域に分布するカナメモチーコジイ群集として知られています。ツブラジイ（コジイ）は変種にあたるスダジイとよく似ていますが、ツブラジイの果実、つまりドングリは小さくて丸く、成木の樹皮にスダジイのような割れ目が少なく、ほぼ平滑であること等が特徴です。また、スダジイ林は海岸寄りに、ツブラジイ林は内陸側に分布する傾向があります。カナメモチーコジイ群集の高木層にはツブラジイのほかアラカシ、タブノキが混生し、亜高木～低木層にサカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、アラカシ、ソヨゴ、シャシャンボ、カクレミノ、タカノツメ等が生えています。



ツブラジイの樹冠



ツブラジイの大木

冬でも葉をつけている常緑樹木が多いので、林内には光が少なく下草類はベニシダ、イノデ、リョウメンシダ、イタビカズラ、マンリョウ、ヤブコウジ等が点在する程度です。個体数が少なく注目すべき植物はアルドオシ、イズセンリョウ、ヘラシダ、ヒトツバ等です。

稚見神社付近の照葉樹林を囲む山地はほとんどがアカマツ二次林になっています。マツ林にはツツジ類がよく生育しています。早春のマツ林を飾るのはコバノミツバツツジです。晩春から初夏にかけては、モチツツジやヤマツツジが花を咲かせています。



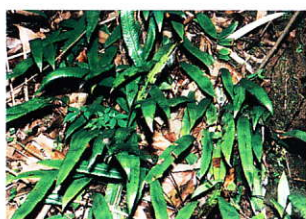
アルドオシ (アカネ科)

高さ30~60cmの常緑低木で、葉は対生、葉腋に1~2cmの刺針があり、アルドオシとはその針で鐵を貫く意カシ、シイ林域の林床植物で関東地方以西の本州、四国、九州に分布



イズセンリョウ (ヤブコウジ科)

高さ1mほどの常緑低木で、シイ林内の谷間等にかたまって生え、秋に白い実ができることが特徴 関東地方より西の本州、四国、九州に分布



ヘラシダ (イワデングタ科)

常緑、単葉、全緑の小型のシダ植物でシイ林域の谷間の湿った岩上、地上に生えます。 本州、四国、九州に分布



コバノミツバツツジ

落葉性で葉の開く前に赤紫色の花を咲かせます。



モチツツジ

半落葉性の低木で、晩春から初夏にかけ桃色の花を咲かせます。 静岡県以西の太平洋側低山地に分布



ヤマツツジ

4~6月に朱赤色の花を咲かせます。 北海道から九州までの全国のマツ林に分布

小牧大山付近の地質

山地の前面に広く展開している尾張丘陵に位置しています。地層は中・古生代の砂岩、頁岩とチャートが分布し、この中・古生層の地層は古くから、秩父古生層と呼ばれています。この付近一帯の中・古生層は美濃帯と呼ばれ、地層の厚さは、6,000m以上にも達しています。一般に東西性の褶曲軸を持ち、波長数キロメートルから十数キロメートルの褶曲を繰り返しています。

チャートは、うすい頁岩と互層する層状チャートが多くみられます。色は暗赤色、灰色、青色、白色と色々変化をしており、暗赤色チャートにはしばしば放散虫の化石が含まれています。この層状チャートは層間褶曲が激しくみられます。

層状チャートの珪酸部は放散虫や珪質海面の骨片といった珪質微化石が多くみられます。

砂岩は、主に火成岩から供給されたアーコーズ砂岩と変成岩などの碎屑物からなるグレイワック砂岩に分類されています。この山地はグレイワック砂岩が多く、大部分は中~細粒です。風化すると黄褐色を呈するが、新しい砂岩は淡青色~灰色です。

頁岩は黒色塊状が多いが、暗褐色~灰色もみられ、風化すると褐色に変化します。

この地層の年代は、以前は石灰岩中のフズリナやサンゴにより古生代末とされていましたが、最近になって、放散虫やコノドントという微化石から三疊紀~ジュラ紀の時代と決定されました。

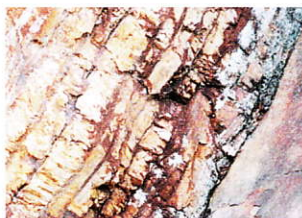


層間褶曲の状況



ヒトツバ (ウラボシ科)

常緑、単葉の暖地性のシダ植物で、ヘラシダより葉の幅が広く、乾燥した岩上や樹幹に生えます。



層状チャート状況

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和を損なわないようにしましょう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。
自然保護憲章より

愛知県小牧大山自然環境保全地域の保全計画

(昭和51年10月15日指定)

指定理由

当該地域には、典型的な暖帯性植生であるシイ・カシ類の常緑広葉樹林(照葉樹林)が安定した林分として成立している。

しかしながら、当該地域の周辺の丘陵地帯は、宅地の造成、土石の採取等人為による開発の波に洗われており、当該地域にもその影響が及びつつある。

したがって、この常緑広葉の天然林を保護するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第20条第1項第1号のすぐれた天然林が相当部分を占める森林の区域として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

保全計画

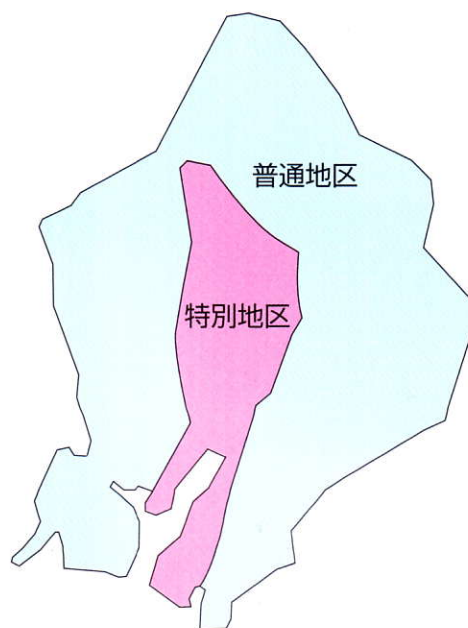
1 保全すべき自然環境の特質

暖帯性植生に属する表日本の典型的な天然林であるシイ・カシ類の常緑広葉樹林(照葉樹林)が安定した林分として成立している。

高木には、ツブラジイ、アラカシ、タブ等を優占し、亜高木にヤブツバキ、サカキ等、林下にイズセンリョウ、イタビカズラ、マンリョウ等を伴っている。

2 面積

特別地区	普通地区	合計
9.32ha	36.74ha	46.06ha



小牧大山自然環境保全地域区域図



所在地 小牧市大字大山

問い合わせ先

愛知県環境部自然環境保全室
名古屋市中区三の丸3-1-2
電話(052)961-2111(代)

愛知県尾張事務所林務課
名古屋市中区三の丸2-6-1
電話(052)961-7211(代)

小牧市農政課
小牧市堀の内1-1
電話(0568)72-2101(代)